

整理番号	2024M-	342	補助事業者名	地方独立行政法人 山口県産業技術センター	事業項目名	アミノ酸分析装置
------	--------	-----	--------	-------------------------	-------	----------

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画／自己評価書(4／5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2025	年	3	月	17	日	作成者	松田晋幸
-----	------	---	---	---	----	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3／5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	事業の実施予定表のとおり、機種選定委員会、制限付き一般競争入札を順調に行うことで、令和6年12月にアミノ酸分析装置を導入することができた。導入後は関係職員へのトレーニングを行い、令和7年1月より仮運用を開始した。既設機とは異なるメーカーの機器であるため、仮運用しながら操作方法の習得や消耗品の消費量等、既設機との違いを確認し、令和7年4月より正式運用を開始する予定。また、ホームページへの掲載やリーフレットの作成・配布等で機器紹介を行い広報につとめた。仮運用中の利用者に対してアンケート調査を行い、満足度や要望等の把握を行っている。				
	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	実施計画・体制	効率的に入札・契約等を行い、目標より2か月程度早く、令和6年12月に導入することができた。導入後は機器担当者が操作方法等のトレーニングや開放機器としての準備に時間を要したため、計画期間内に正式な開放機器としての提供ができなかったため、実施計画・体制に課題が残った。(令和7年4月より開放機器サービスを開始できる予定。)			3
(3) 達成目標	事業の実施結果	令和6年12月18日 納入	120%	目標値の令和7年2月の導入に対して、2か月程度前倒して導入(納入・検収)できた。	5
	事業の成果・波及	1. 239時間/月 2. 満足度:100%	1. 239% 2. 120%	1. 利用時間は目標値を大きく上回った。 2. 利用者の満足度は目標値を上回った。	5
	事業の実施結果	1. 1375部 2. 1回 3. 3回	1. 917% 2. 100% 3. 100%	1. 機器紹介のリーフレットを1375部配布した。当センターで開催するセミナーや技術相談窓口で配布し、受益者である地域の企業に周知することができた。また、当センターが実施した県内企業向けの調査依頼と併せて1200部以上を配布し、広く周知することができた。 2. 導入時に、当センターの職員に対し、電子メールによる機器案内及び機器説明会を実施した。 3. JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。	5
	競輪・オートレース補助金による事業であること	1. 1375部 2. 3回 3. 3か所	1. 917% 2. 100% 3. 100%	1. 当センターで配布した機器紹介のリーフレットにJKAのロゴマークとJKAの補助を受けたて導入した旨を記載して1375部を配布した。 2. JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。 3. 補助対象機器の設置場所(1か所)、開放機器受付付近(2か所)に計4枚のJKAポスターを掲示した。	5
(5) 自己評価の体制	令和7年3月17日に評価委員会(技術支援部長ほか8名で構成。委員長は技術支援部長)を開催し、成果の目標、達成状況等について評価を行った。(評価過程の記録として議事録を添付する。)評価結果は当センターHPに掲載予定である。				4

(b) 総合評価

総合評価点	4
-------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	既設機器はメーカーのサポート期間終了により、不具合箇所の修理ができない状況であった。既設機は利用頻度も高く、故障による使用不可の状態となった場合、企業支援に大きな支障が出ることが想定されていた。また、導入する機器については整備機器要望に関する地域企業へのアンケートでは、更新希望企業が多く、地域企業のニーズに合った機器を導入できたと考えている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】要望申請に先立ってアンケート調査、企業ヒアリング等を行い、県内企業のニーズを把握した上で必要性の高い機器を導入している。導入後は情報発信を積極的に行うなど、機器利用に努め、県内企業における地域イノベーション及びものづくり技術の高度化・ブランド化、技術課題解決の達成に寄与している。 【課題・改善すべき点】納入後の機器開放までの準備に想定以上の時間を要し、納入後のスケジュール管理に課題が残った。機器の利用状況については目標値を達成しており、今後も利用数の維持に努める。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってほしい点	導入した機器は、従来の食品加工分野での利用のほか、食品機械工業製品や生物由来の製品開発にも利用が可能。これまで通りの食品加工関連での支援業務に加え、食品加工機械や生物由来製品の開発支援など、新たな分野での活用が期待できる。

【公設[機械設備]

整理番号	2024M-	342	補助事業者名	地方独立行政法人 山口県産業技術センター	事業項目名	熱分析システム
------	--------	-----	--------	-------------------------	-------	---------

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画／自己評価書(4／5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2025	年	3	月	日	作成者	松田 晋幸
-----	------	---	---	---	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3／5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。						採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)					
(2) 事業内容	事業の実施予定表のとおり、機種選定委員会、制限付き一般競争入札を順調に行うことで、令和6年12月に熱分析システムを導入することができた。導入後は関係職員へのトレーニングを行い、令和7年1月20日より開放機器として運用を開始した。また、ホームページへの掲載やリーフレットの作成・配布等で機器紹介を行い広報につとめた。利用者に対してアンケート調査を行い、満足度や要望等の把握を行っている。					
(3) 達成目標	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
	実施計画・体制	効率的に入札・契約等を行い、目標より2か月程度早く、令和6年12月に導入することができた。導入後は機器担当者が操作方法等のトレーニングを行うなど機器開放にむけて準備進め、令和7年1月に運用を開始したことから、実施計画・体制は妥当であった。				4
	事業の実施結果	【達成値】 令和6年12月13日 納入	【達成状況】 120%	【具体的内容】 目標値の令和7年2月の導入に対して、2か月程度前倒して導入(納入・検収)できた。		5
(4) 情報発信	事業の成果・波及	【達成値】 1. 25時間/月 2. 満足度:100%	【達成状況】 1. 125% 2. 120%	【具体的内容】 1. 利用時間は目標値を大きく上回った。 2. 利用者の満足度は目標値を上回った。		5
	事業の実施結果	【達成値】 1. 1375部 2. 1回 3. 3回	【達成状況】 1. 917% 2. 100% 3. 100%	【具体的内容】 1. 機器紹介のリーフレットを1375部配布した。当センターで開催するセミナーや技術相談窓口で配布し、受益者である地域の企業に周知することができた。また、当センターが実施した県内企業向けの調査依頼と併せて1200部以上を配布し、広く周知することができた。 2. 導入時に、当センターの職員に対し、電子メールによる機器案内及び機器説明会を実施した。 3. JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。		5
(4) 情報発信	競輪・オートレース補助金による事業であること	【達成値】 1. 1375部 2. 3回 3. 3か所	【達成状況】 1. 917% 2. 100% 3. 100%	【具体的内容】 1. 当センターで配布した機器紹介のリーフレットにJKAのロゴマークとJKAの補助を受けたて導入した旨を記載して1375部を配布した。 2. JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。 3. 補助対象機器の設置場所(1か所)、開放機器受付付近(2か所)に計4枚のJKAポスターを掲示した。		5
	(5) 自己評価の体制	令和7年3月17日に評価委員会(技術支援部長ほか8名で構成。委員長は技術支援部長)を開催し、成果の目標、達成状況等について評価を行った。(評価過程の記録として議事録を添付する。)評価結果は当センターHPに掲載予定である。				4

(b) 総合評価

総合評価点	5
-------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	既設機器は導入から22年が経過し、測定精度の低下や機器の動作不良などにより使用不能となる機会が増えてきており、企業支援業務に大きな支障を来していた。導入する機器については化学、電気、機械、環境等の分野において製品開発や製造技術、品質評価のための機器として利用が多く、県内企業からも機器の更新が望まれていることから、地域企業のニーズに合った機器を導入できたと考えている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】要望申請に先立ってアンケート調査、企業ヒアリング等を行い、県内企業のニーズを把握した上で必要性の高い機器を導入している。導入後は情報発信を積極的に行うなど、機器利用に努め、県内企業における地域イノベーション及びものづくり技術の高度化・ブランド化、技術課題解決の達成に寄与している。 【課題・改善すべき点】導入は順調に進み、導入後の利用についても想定以上の利用があった。特に課題や改善点は見当たらない。今後も利用数が維持できるように情報発信等に努める。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってほしい点	導入した機器は、熱分析システムは示差走査熱量計(DSC)、動的粘弾性測定装置(DMA)、熱機械分析装置(TMA)の3種類の機器からなり、有機物やプラスチック、セラミックス、金属材料の熱分析を目的とする分析システムである。これらの装置は相互補完的な特徴を持つ熱測定装置で、各々1つの装置だけでは、試料形状や熱的性質の種類によって目的の分析が行えないことがあるが、3種の装置を用いることで単独では困難な、様々な熱的性質の分析が可能となる。

【公設[機械設備]